

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	大田区鵜の木 2-34-20
園名	アスクウのき保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界の文化

～講師の故郷（アメリカ）について知り異文化に触れる～

<テーマの設定理由>

当園は、外部講師による英語教室や地域住民との交流が盛んであり、日常的に多様な背景を持つ人々と触れ合える環境にある。こうした環境の中で、子どもたちが講師の異国性に興味を示し、質問を投げかけるなど、異文化に対する知的好奇心が高まっている姿をよく目にした。また、物怖じせず積極的に他者と関わろうとする社交的な子が多いことから、この資質を活かし、英語講師との直接的な交流を通じて、世界への視野を広げるきっかけとしていけるようにする。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6月…講師の母国ってどこだろう？

7月…アメリカのゲームを知ろう

8月…日本とアメリカの乗り物の違いについて知ろう

9月…日本とアメリカの服の違いを知ろう

10月…外国にはどのような楽器があるのだろうか。

11月…アメリカの食べ物って知ってる？また、何を使って食べるんだろう？

12月…日本とアメリカにはどのような文化？似ている文化はあるかな？

1月…英語の歌、どの歌が一番好きか。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

せかいの図鑑、よのなかの図鑑、にっぽんの図鑑、小学館の図鑑 NEO 音楽…異文化について調べたり、比較するために使用。

世界のことばあそびえほん、世界名作おはなし絵本…異文化の物語や言葉に触れ、文化の背景やその国の文化を知るために使用。

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

講師の故郷の国は？からどんな国なのか、どんな言葉を使っているか、遊びや乗り物、洋服の違い、文化の違いなどを問いかけた。

探究活動の様子：

少人数のグループに分かれ、せかいの図鑑やよのなかの図鑑、にっぽんの図鑑を開き、日本とアメリカの違いを見つけていた。乗り物の違いについては、パトカーやバスなど、知っている物でも色や形が違うことに興味をもち、「かっこいい色してる」「ランプが青」など、見た目のイメージを言葉にしていた。「なぜ日本にはあってアメリカにないのか」という子どもたちからの問いで話し合うと「アメリカと日本、国の大きさがちがうからじゃない?!」と、世界地図を見て国の大きさの違いに気付き、話がまとまった。

食べ物の違いの探究では、同じものが日本でも食べることが出来ることを知りながら、食具の違いにも興味を持つ姿があった。そこから、「アメリカでは箸をあまり使わない」ということに気付いた。と自分たちが普段から使っている「箸」は、日本の文化だと学び、そこからもっと上手に箸を使いたいという意欲が生まれ、箸の練習遊びに発展していく姿もあった。

講師の母語である英語の歌を教えてもらった。そこから、ベイビーシャークの歌詞を小学館の図鑑 NEO 音楽、世界のことばあそびえほん、世界名作おはなし絵本を使って、この英語の歌詞の意味や単語の物の写真を見て、意味を理解する姿があった。シャーク＝魚だと思っている子が多く、サメだということを知ると「魚と似てるよね」「魚はフィッシュだよ」と知っていることを発言していた。また、知らない単語には「これはどういう意味なの?」と興味を持って意味を尋ね調べ、意味を知ったうえで歌を歌ってみると、「ここは魚が逃げてるんだよね」など、ワンシーンを言葉で説明しようとする姿があった。意味が分かっているも伝え方が難しい時には「これはね、〇〇だと思う」と調べなおして答えていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

英語がどのような国で使われているか、なぜ、英語があるのか。子どもたちには、理解が難しいようだったが自分たちが使う言葉(日本語)と、英語は違うものだという理解はあ

った。比較をする際に子どもたちがなじみのあるもので行うことでイメージがつきやすく、探究活動に熱が入ることができた。アメリカと日本の文化の違いを図鑑等で比較した時に色の違い、大きさの違いなどにいち早く気づき、グループ間で進んで発表することが出来ていた。「箸は日本の文化」だと知ったことで、もっと上手に箸を使えるようになりたいという気持ちから箸の使いかたを練習する姿には驚かされた。また、日本語と英語の発音の違いにも気づき、講師の発する単語にしっかり耳を傾ける姿があり、日本語と違う英語にも興味を持って取り組んでいた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

講師の故郷の国は？からどんな国なのか、どうしてアメリカの方が消防車は大きいのか、電車は長いのか、服装の違いってなにか、外国の楽器ってどんなものか、食の違いってなにか、どんな歌があるのかを問いかけた。

探究活動の様子：

少人数のグループに分かれ、せかいの図鑑やよのなかの図鑑、にっぽんの図鑑などを使って日本とアメリカの違いを比較していった。外国の楽器についての探究では、図鑑を見ながらどんな楽器が存在するのかを学んだ。楽器は、たくさんあるがアメリカ発祥の楽器が少ないことに気付いたため、日本と外国の楽器の違いは何だろう？と探究をしていった。日本は、「太鼓？笛？」と話し合う姿が見られ、そこから、フルート、ドラムも少し違うけど似ていることにも気付いた。どのような楽器かを言葉やジェスチャーで発表する姿があった。

日本とアメリカの食の違いについて、アメリカの食べ物も日本で食べることができるという事や家族との外食での経験を発表し合った。日本の食べ物ではおにぎりや味噌汁があることを知り他のものもあるのか再度図鑑で調べ、発表を行った。そこから、「アメリカのご飯は量が多い」ことに気づき、グループの子が「家族でレストランに行って食べたピザが大きくて食べきれなかった」と話していた。以前、「アメリカは日本よりも大きい」ということを世界地図で見て比べたときのことを思い出した子どもが、「だって、アメリカは大きいから食べ物も（量）大きいんだよ！」と発言していた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

探究活動の際、「この楽器は英語でなんて言うんだろう？先生、教えてよ！」と英語に興味を示していた。今回使った楽器だけではなく、「ほかにも触ってみたいな。知りたいな」と積極的な姿が見られていた。そこから、外国にはどんな楽器があるかの探究とともに海外と日本の楽器の違いにも発展させることができていた。子どもたちが知っている楽器も多くあり、積極的に探究に参加する姿や「これって何だろう？」という問いを何個も出し

て、グループ間で共有して図鑑で調べる姿に驚きを感じた。また、図鑑で調べながら自分の体験談を話す姿も見られ成長を感じた。

英語を使ったゲーム遊び（I SPY A GAME）を導入で取り入れた際、最初は、ルール
の理解や英語の単語の理解が難しく戸惑う姿があったが回数を重ねるごとに、理解し参加
する姿が見られた。難しかった単語は、自ら進んで図鑑で調べる姿も見られた。

【5歳児実施分】

問いを考える：

講師の母国について、アメリカと日本のゲームについて、乗り物の違い、服装の違い、ど
んな楽器があるのか、両国のイベントの違いについて、曲の違いについてを問いかけた。

探究活動の様子：

少人数のグループに分かれ、せかいの図鑑やよのなかの図鑑、にっぽんの図鑑などを使って
日本とアメリカの違いを比較していった。図鑑を見ていくと乗り物の違いでは「どうして、日
本とアメリカの乗り物の大きさが違うのか？」という問いが生まれた。アメリカ人と日本人の
身長や体格差に着目し、「アメリカの人は身長が大きい人が多いから乗り物も大きくなるんじ
ゃない?!」と発言した子がおり、みんなで「たしかに!!」と納得する姿があった。

アメリカの行事と日本の行事の違いを探索探究活動では、世界のことばあそびえほん、世界名
作おはなし絵本や図鑑を使って、違いを探していった。日本では、豆まき、ひな祭りなど日本
の行事と知っていたが、「ハロウィン、クリスマスやってるけど日本の行事じゃないんだね」
と初めて知る様子があった。講師が「ファイヤーウィークがある」ということを教えてくれた
ことを思い出し、日本にも同じような行事がないか図鑑を使って調べる姿があった。防災週間
は、日本にもある事、保育園でも避難訓練をしていることが子ども同士の話し合いで出てきた。
外国の行事を知っていくと、世界のお話にも興味を持ち、読み進めると「これは〇〇の国のお
話なんだね」と日本と外国の物語の違いに気づき問いをいろんな方向でふくらませていた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

前年度のすくわく活動の成果もあり、外国への興味がとてもある中での今年度の活動だった為、
気づきの点が保育者も驚くようなものが全体を通して多かった。アメリカと日本の大きさに地
図を見て気づき、アメリカ人の体系の違いや国が大きいから人も多いという発言に保育者含め
子どもたちも「なるほど!」と頷いていた。また、アメリカの行事の探究から一つのグループ
が、世界のお話に興味を持ちそこからさらに探究をしていった。イラストでの外国と日本の違
いを知りながら文化の違いをさらに学んでおり、発表会で披露した「ももたろう」と「あかず
きん」は、どこの国の物語か調べていた。ももたろうが日本の物語だと知ると誇らしげな姿も
見られ、自分が生まれた国の事をもっと知って好きになってほしいと感じた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児



5 歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	大田区鵜の木 2-34-20
園名	アスクウのき保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界のスポーツを知ろう

<テーマの設定理由>

当園は広い園庭を有し、日常的にダイナミックな身体活動を展開できる環境にある。子どもたちは全体的に運動遊びを好み、特に最近では鬼ごっこやわらべうたといった日本の伝承遊びに集団で取り組む姿が目立つ。この傾向を活かし、遊びの対象を世界の運動遊びへと広げていきたい。日本の遊びとの共通点や違いに気づくことで、世界への興味を深め、さらなる運動遊びの充実へと繋げていく。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで、月に1回体操講師を招致し世界のスポーツに直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6月…スポーツとは何か？身近にあるスポーツは何か？

7月…外国にはどんなスポーツがある？

8月…興味がある国のスポーツって何がある？

9月…興味のあるスポーツの道具やルールについて

10月…日本でやるスポーツって何だろう？

11月…日本のスポーツのルールって？

12月…身近にあるスポーツって何だろう？

1月…ボールを使ったスポーツって何だろう？

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ウェイブバランス平均台、バランスミニおやま、リズムジャンプ、スマートリング、リズムジャンプライン…世界のスポーツを知り、親しみやすい教具を用いて体験するために使用。

ライトサッカー…親しみのある教具の中で比較がしやすく、なじみのある物、ボールの形や大きさ、重さなどを比較するために使用。

小学館の図鑑 NEO 人間…図鑑を通して身体の使い方を知り、どのように動かしているか知るために使用。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

スポーツという言葉について知っているか？どのように動くことがスポーツか、どんなスポーツがあるか、野球をしてみるとのことでどのような道具を使うか、またどんな材料を使って道具を作るか、相撲はどのようなスポーツか、ルールは？相撲をするには何が必要か、体のどこに力を込めるか、ボールを使った遊びでキャッチボールとドッチボールの違いは？

探究活動の様子：

少人数での探究活動では、世界のスポーツについて、英語の講師の母国「アメリカ」に注目していた。図鑑を見てスポーツを探すと野球の写真を見つけ「知ってる！」「ボールをカキンとするやつ」と思ったことを口々に話す姿があった。室内でもできる野球をするために柔らかいバットを作ることになった。硬い＝痛いという意見が出てきたため、新聞紙を使って作成した。実際に柔らかいボールと手作りバットを使い、ボールを打ってみようとするが、打つことが難しくみんな必死に練習していた。

日本発祥のスポーツについて探究した際、子どもから「すもう！」と出てきた。ルールも「線から出たら負け！」と知っている姿も見られ図鑑を見てルールを学んだ。試合をした時に、体のどこに力が入るのかを探究し、体の絵にシールを貼っていった。「頭も使うから、シール貼る！」という斬新な意見も出てきた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

知っているスポーツ、運動は？の問いでは「おままごと！」「鬼ごっこ！」と意見があがっていたが、ヒントを工夫することで野球、サッカーと知っているスポーツを発表することができた。外国のスポーツを知るということで世界地図やせかいの図鑑を見ながら、様々なスポーツを知ることができていたが、「これは、日本でもやっているね！」という声が多く上がっていた。外国と日本のスポーツを比べたときにすもうやサッカーに似た「蹴鞠」という声もありよく知っているな、と驚いたとともに、日本の昔の遊びで学んだことをしっかり覚えており、園庭にあるライトサッカーや柔らかいボールを使ってその遊

びをしようとする姿があった。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

みんなが気になるスポーツの国はなに？、園の中でできるスポーツは何？どんなルールにする？、自分たちで決めたルールで試合をしたけどどうだった？、日本発祥のスポーツって何？どんなルールだろう？

探究活動の様子：

イギリス発祥の「サッカー」について探究することになった。どんなルールだったかを少人数のグループに分かれ図鑑等使って調べた。実際に自分たちで決めたルールでゲームを実践すると、「ゴールは3ついらなかった」「ボールはおおきすぎるとやりにくいから、ぶよぶよのやつがいい」「部屋では走れないからけががなくていい！」とやってみて気付くことができていた。サッカーボールはじめ、ライトサッカーや園にあるボールを集め、試す姿も見られた。

日本のスポーツでは、「すもう」を探究することになった。ルールの確認では、線からでたら負けは、知っているがどうすれば線からでないかを考えたときに、ウェイブバランス平均台、バランスミニおやま、リズムジャンプ、スマートリング、リズムジャンプラインなどの道具の中から、平均台で囲いを作る姿があったが、「これは何か違う！」となり、ビニールテープで囲いを作った。また、押されても倒れないようにバランスミニおやまなどを使いバランス感覚を養う特訓も行っていった。また、相撲では、自ら「審判がいないと！」と気づき、試合で取り入れて行っていたが、人によって判断が変わっていくことにも気付くことができ、審判はこういう判断をしようとする姿も見られしっかり話し合う姿やルールを統一しようとする姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

園にある様々な道具を出して、どうしたら上手にゲームを行えるか、道具を試しながら「このボールは、蹴りにくい！」「ここに平均台の線置いたら怪我する！」など自分たちで考えて、動いて、話し合っゲームを作り上げていく姿があった。なかなか、上手いれないときは、キャスト講師に相談しながら進めることもできた。外国発祥のスポーツ、日本発祥のスポーツ様々な物があり、普段の活動の中でも世界の図鑑や日本の図鑑を広げる姿が見られ嬉しく思った。ウェイブバランス平均台、バランスミニおやま、リズムジャンプ、スマートリング、リズムジャンプラインの道具を見て、「これって(平均台)、日本のスポーツ？」という問いがあがり、調べると外国のものと出てきて驚く姿や「こんなふうにするんだよ！」と進んで体験する姿があった。

【5歳児実施分】

問いを考える：

みんなが気になるスポーツの国はなに？、どんなスポーツをしたいか、また、ルールを考えてみよう、自分たちで決めたアイスホッケーのルールを再確認し、必要なものを調べよう、日本にはどんなスポーツがある？、世界にはどんなスポーツがある？

探究活動の様子：

少人数のグループに分かれて地球儀と図鑑を用いて気になる国のスポーツは何か調べた。寒い国はアイスホッケーやスケート、スキーなどがあると意見が出た。暑い国では、マラソンや陸上競技が盛んな事を知ると「わかった！寒いと雪降ったり、お水が凍ったりするからだ！」とさらなる発見に気が付く子もいた。「アメリカはサッカー？」「カナダはアイスホッケーなんだよー」「日本はすもう！剣道もあるよ」と自信をもって発言していた。アイスホッケーはどんなスポーツ？と問いかけたら、「網にボールが入ったら勝ちなんだよ！」「棒を使うよ。棒の先が曲がってるんだよ！」と知っている知識をグループ内で話していた。アイスホッケーのルールを確認し合い何が必要なのかを確認した後ゲームを実行していった。実際にゲームを行うとゴールががら空きで得点がどんどん入ってしまうことに対し「ゴールを守る人が必要だった！」「キーパーは手を使っていいんだよ！」とルールを追加しゲーム性を高めることが出来ていた。また、小さいボールだとゴールに入れにくいとの意見からライトサッカーや大き目の柔らかいボールを使用してゲームしてみたが「あれ？なんか違うなあ。やりにくい！」という結果になり、最初に使っていたボールに戻っていた。

クリスマス付近にサンタの故郷、フィンランドに興味を持ち始めた子どもたち。図鑑を見ていると、アイスホッケーのほかにスキーやモルックというスポーツが有名なことを発見。「モルック知ってるよ！50点先に取ったら勝ちなんだよー」と知っている子がいて、実際にやってみる事になりました。チーム分けをして1チームVS2チームで戦ってみました。接戦した戦いになり、すごく盛り上がっていました。「ボーリングにも似てるねー」との発言に今度はみんなでボーリングを作ってみようと盛り上がる姿も見られました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

サッカーやアイスホッケーのほかにフランス、ニュージーランドで有名なスポーツも発表していたことや様々な国名がポンポン出てきており、昨年度のすくわく活動での学びが生きていると感じた。また、寒い国、暑い国も理解しておりその国の特徴を踏まえそのスポーツが盛んに行っていると気付き、年長児としての気付きに感動した。また、スポーツのルールやどうしたら円滑にゲームができるかを考えたり、練習したりするときにスマートリングを使って「ここからやるとやりやすいよ！順番待つ人はここ！」と子ども同士で声を掛け合っていた。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児



4 歳児



5 歳児

